

2025年11月15日号

テックトレンド情報

バイブコーディング・AI駆動開発の最新動向

「Vibe Coding」が英語辞典の「2025年の言葉」に選定される

 Lovable

 Make

 bolt.new

 emergent

 Devin

 v2

 replit

 KIRO

Product Hunt

Y Combinator

And More

Input utilizes AI capabilities, but the final output is done manually.

 SPRINT Japan

v1.3

Index

～毎日AI起動開発の現場を見ている人間のリアルな観測と次の一手を御社に～

用語解説	3	AI開発ツール 差別化ポイント比較	19
Breaking news	4	4大AIツール 最新動向と機能比較（前半）	20
Cursor 2.0	5	4大AIツール 最新動向と機能比較（後半）	22
Lovable	6	セキュリティと品質管理の重要性	23
Figma Make & Figma MCP Server	7	勝者はまだ決まっていない	24
Bolt.new	8	Product Hunt AI製品比率	25
v0	9	収益化フェーズへの移行と主要トレンド	26
Emergent	10	Product Hunt トップ7製品の詳細（前編）	27
Devin	11	Product Hunt トップ7製品の詳細（後編）	28
Replit Agent3	12	Product Hunt フォーラムが示すスタートアップの現実	29
KIRO	13	Y Combinator Winter 2026 バッチ	30
Manus	14	トレンドカテゴリが示す2025年の開発者ニーズ	31
Google AI Studio	15	Jordan Fisher氏の発言	32
GitHub Copilot	16	まとめ: 「実験」から「実用化」へ	33
Claude Code	17	編集長na2kenの注目トピック	35
Codex	18		

🔥 忙しい方向けの攻略ガイド

▼ 経営者・事業責任者向け：3 / 23 / 33

3：全体の地形図（何が起きてるか瞬間でつかめる）
23：2025年のAIツール差別化ポイント（投資判断に関わる）
33：実験→実用化への道筋（自社に落とし込む指針）

▼ 現場マネージャー向け：19～22 / 24～27

19～22：4大AIツールの機能と使い分け（すぐPoCに直結）
24～27：PHトレンドと“勝者未定”ゾーンの把握（技術選定ミスを回避）

▼ 技術リーダー向け：5～16 / 30～31

5～16：AI開発プラットフォームの動向（実務インパクト大）
30～31：2026～のトレンドカテゴリ“AI Infra・Vibe Coding”の深読み（ロードマップ策定用）

用語解説

■ バイブコーディング (VibeCoding)

コード（プログラム）を書かずに、専用プラットフォーム上でプロンプト（指示文）を入力することで、非エンジニアでもアプリやソフトウェアの構築・公開まで一気通貫で実現する考え方です。

2024年にOpenAI研究者のアンドレイ・カルパシー氏が提唱した新概念として注目が高まっています。

■ AI駆動開発

要件定義・設計・コード生成・テストまで、開発プロセス全体にAIを組み込み、スピード・品質・効率の同時向上を図る手法です。開発者はAIを“チームメンバー”として

指示・監督し、人間はレビューや品質保証など高付加価値業務に集中します。

■ フルスタック開発

Webサービスやアプリの「フロントエンド・サーバー側・データベース」の全レイヤーを、一貫して設計・実装・運用まで担うソフトウェア開発のスタイルのことです。

■ MCP (Model Context Protocol)

AIモデルを「外部のデータ・ツール・システム」に共通ルールでつなぐための仕組みです。社内DB・カレンダー・Slackなど、バラバラのサービスを同じ形式で扱えるようにする“AI用の標準コネクタ”のイメージです。

■ 仕様駆動開発

仕様駆動開発（Spec-Driven Development、SDD）とは、ソフトウェア開発の初期段階で仕様書（Spec）を明確に定義し、それを唯一の基準として、その仕様に基づいて設計・実装・テスト・ドキュメント化までを一貫して進める開発手法です。

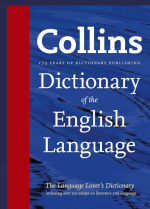
AI駆動開発（AIドリブン開発）で起こりやすい、AIが意図しないコードを生成する「Vibe Coding」のような感覚的な開発の課題を解決します。

■ Stripe

オンラインビジネス向けの決済処理プラットフォームを提供するグローバル企業です。世界中の企業がウェブサイトやアプリケーションで顧客からの支払いを受け付け、管理するための金融インフラを提供しています。

“バイブコーディング”が「2025年の言葉」に

「Vibe Coding」が英語辞典の「2025年の言葉」に選定される



Collins Dictionary が選定

2025年11月6日、Collins Dictionary（イギリスで出版されている英語辞典）が「Vibe Coding」を2025年の言葉に選定しました。これは、AI駆動開発が主流文化に浸透したことを示す象徴的な出来事です。

2025

Collins Dictionaryが「Vibe Coding」を年間の言葉として選定した年。

主要ポイント

- ▶ **創始者:** Andrej Karpathy（元Tesla AI責任者、OpenAI創業メンバー）が2024年に提唱
- ▶ **定義:** コードの詳細を完全に理解せずに、AIアシスタントの助けを借りてソフトウェアを構築する
- ▶ **中小企業のスーパーパワー:** 技術的な専門知識がなくても、ビジネスオーナーがアイデアを実現できる時代が到来

文化的影響

Collins Dictionaryの選定は、バイブコーディングが単なる技術トレンドではなく、社会現象として認知されたことを意味します。

文化的影響

Forbesは、バイブコーディングを中小企業にとっての「スーパーパワー」と表現しています。技術的な障壁が取り除かれ、誰もがソフトウェア開発に参加できる時代が到来したことを意味しています。

Cursor 2.0

マルチエージェント開発革命

2025年10月29日リリースの新機能

4x

独自Composer1モデル

4倍高速な生成スループット。Anthropicの最新モデルと比較して、コード生成速度が大幅に向上しました。

∞

真のマルチエージェント

最大8つのタスクを並列処理し、互いに干渉することなく動作。従来のシングルエージェントの限界を突破しました。



ネイティブブラウザツール

自動テスト、要素選択、スクリーンショット機能を統合し、開発とテストのワークフローを一元化しました。

VS Codeフォークで最適化

Cursor 2.0は、VS Codeをフォークして独自に最適化したAI特化IDEです。従来のエディタ拡張ではなく、IDE全体をAI駆動開発のために再設計しました。これにより、深いレベルでの統合と最適化が実現されています。

価格 (Pro) **\$20/月**

GitHub Copilot (\$10/月) と比較すると高価ですが、4倍の速度とマルチエージェント機能が差別化ポイントです。

Lovable

フルスタック開発の民主化

2025年11月5日アップデート



Shopify統合で電子商取引革命

Lovableは、Shopify統合を発表し、電子商取引アプリケーションの構築を劇的に簡素化しました。デザイナーや非技術者でも、本格的なECサイトを構築できる時代が到来したことを意味しています。



主な機能

- ▶ **ビジュアル編集+チャットのハイブリッド**: 直感的なビジュアル編集とAIチャットを組み合わせた独自のインターフェース
- ▶ **自動セキュリティスキャン**: ガイド付きベストプラクティスで、セキュリティを自動的に確保
- ▶ **完全管理バックエンド**: Supabase統合により、データベース、認証、ストレージを一元管理／一連の Webシステムを簡単に実現できる時代が到来
- ▶ **エージェントのコンテキスト向上**: AIエージェントがビジネス要求を理解し、仕様策定から実装までの確な提案を提供

価格 (Pro) **\$25/月**

Cursorと比較すると若干高価ですが、フルスタックであることを考えると、適正価格ではないでしょうか。

Figma Make & Figma MCP Server

UIデザインの秀逸さを正確に外部化可能に

2025年11月6日リリース

servicenow

ServiceNowとの戦略的提携

デザインビジョンをエンタープライズ変革に変える提携を発表。Figmaは単なるデザインツールから、AI駆動開発プラットフォームへと進化しています。

価格 (Pro)
フルシート **¥2,400/月**

豊富なデザイン・コラボレーション機能を自由に利用できることを考えると良心的な価格と言えます。

Figma Make

2025年10月正式版リリース

プロンプトからアプリへ。自然言語でアプリを説明するだけで、完全に機能するアプリを生成します。

- ▶ **統合されたワークスペース:** デザイン、プロトタイピング、反復作業を単一環境で実現
- ▶ npmパッケージのインポート機能 (11月追加)
- ▶ **Make kits:** デザインライブラリからReactコンポーネント生成 (早期アクセス)

Figma MCP Server

2025年10月30日一般提供開始

MCPでUIデザインをコードレベルで正確な情報を外部システムと接続させることが可能になりました。

- ▶ **デザインコンテキストの提供:** レイヤー名、レイアウト、変数などをLLMに提供
- ▶ **対応ツール:** VS Code、Claude Code、Cursor、Windsurf
- ▶ **Code Connect UI:** コンポーネントマッピング提案、AI生成コードスニペット

Bolt.new

5ヶ月で4,000万ドルARRの成長物語

2025年11月5日～15日までの状況

今回は重要なリリースや機能追加はないようです。

2025年11月5日～15日の期間において、bolt.new（StackBlitz）固有の新機能リリースや重要なアップデートは確認できませんでした。ただし、11月10日前後にはCEO Eric Simonsのインタビュー記事が複数公開され、驚異的な成長実績が報道されています。

急成長の実績と業界への影響

- ▶ **5ヶ月で4,000万ドルARR:** 2024年10月のローンチから驚異的な成長を達成
- ▶ **会社存続の危機から復活:** StackBlitzは閉鎖の数週間前で、ARRはわずか8万ドルだった
- ▶ **7年間のWebContainers技術:** bolt.newのローンチがこの状況を劇的に変えた
- ▶ **先行者利益:** 確立されたユーザーベースと実績を持つ

競合環境とGoogle AI Studioの挑戦

- ▶ **Google AI Studioの「Vibe Coding」:** 10月にbolt.newの競合として注目された
- ▶ **無料、高速で提供:** Googleのインフラに支えられた競合の登場
- ▶ **競争環境の激化:** 一部の記事では「Google AI Studio Just Killed Bolt.new」との見出しも

Premium Workshopとコミュニティ活動

- ▶ **Premium Workshop #1（11月12日）:** コミュニティ育成活動を継続
- ▶ **YouTubeコンテンツ:** AI App構築、Webサイト作成、Bolt Cloudの使用方法を提供

Vercel / v0

GPT-5.1時代のインフラ基盤を提供

2025年11月13日アップデート

Bulk Redirects機能 - 大規模移行を簡単に

プロジェクトごとに最大100万件の静的URLリダイレクトをサポート。CSV/JSON形式でのインポートに対応し、大規模サイト移行が劇的に簡単に。

- ▶ **最大100万件のリダイレクト:**大規模なサイト移行、リンク切れ修正、期限切れページ処理が容易
- ▶ **CSV/JSON形式対応:**vercel.jsonファイルにbulkRedirectsPathフィールドを設定するだけで自動インポート
- ▶ **Pro/Enterpriseプラン:**Pro 1,000件、Enterprise 10,000件が含まれる。追加容量は25,000件あたり月額50ドル

v0の現状

- ▶ 11月5日～15日の期間で新機能のリリースは確認されていません
- ▶ コミュニティフォーラムで一部の技術的問題が報告されている（コードベース消失、公開エラーなど）

GPT-5.1 Codexモデルへの即座アクセス

AI Gateway経由でOpenAIの最新GPT-5.1 CodexとGPT-5.1 Codex miniへのアクセスを提供。長時間実行のエージェント型コーディングタスクに最適化。

- ▶ **OpenAIアカウント不要:**Vercel AI SDKから直接利用可能
- ▶ **長時間セッション対応:**コンテキストと推論品質が劣化しない
- ▶ **統一API:**モデル呼び出し、使用状況とコストの追跡、リトライ、フェイルオーバー、パフォーマンス最適化を実現

GPT-5.1 InstantとThinkingモデル

- ▶ **GPT-5.1 Instant:**指示追従の改善、適応的推論、より会話的な応答
- ▶ **GPT-5.1 Thinking:**シンプルなタスクでは速度優先、複雑なタスクでは深い推論

Emergent

Vibe Codingツールのギャップを埋める存在

2025年11月5日～15日までの状況

今回は重要なリリースや機能追加はないようです。

2025年11月5日～15日の期間において、Emergent固有の新機能リリースや重要なアップデートは確認できませんでした。ただし、11月11日のInstagram投稿で「Emergent is "filling the gap that most vibe coding tools miss" (Emergentは「ほとんどのバイブコーディングツールが見逃しているギャップを埋めている）」というメッセージを発信し、差別化ポイントをアピールしています。

「Vibe Codingツールのギャップを埋める」というポジショニング

- ▶ **Instagram投稿（11月11日）**: Vibe Coding 2025の文脈で、多くのツールが見逃しているギャップをEmergentが埋めていると主張
- ▶ **AIが言葉を動作するコードに変換**: Vibe Codingの基本的な価値提案を強調
- ▶ **差別化ポイント**: 具体的なギャップの内容は明示されていないが、独自のポジショニングをアピール（良くも悪くも後発の価値を高めている）

比較記事での存在感とポジショニング

- ▶ **「Replit vs Bolt new vs Emergent」（11月10日）**: 2025年の主要AI駆動開発プラットフォーム3つとして比較
- ▶ **「9 Best Lovable Alternatives」（10月24日）**: Lovableの代替ツールとして紹介
- ▶ **競合他社と並んで評価**: 主要プレイヤーとして認知されている

無料＆有料のAI開発ツールとしての位置づけ

- ▶ **基本的な価値提案**: シンプルな会話でアイデアをアプリに変換、コーディング不要
- ▶ **幅広いユーザー層**: 無料と有料の両方のプランを提供

Devin

Sonnet 4.5で2倍速のAIエンジニア

2025年11月7日アップデート

New Devin Agent - 速度と知性の飛躍的向上

Claude Sonnet 4.5をベースとした、より高速でインテリジェントなバージョン。従来のDevinと比較して約2倍の速度を実現し、実行ごとに選択可能。ドロップダウンでスターを付けることで、すべての実行でデフォルトとして設定できます。

エンタープライズナレッジ管理の強化

- ▶ **Repository Setup Steering Knowledge:**エンタープライズ全体でリポジトリセットアップエージェント用のナレッジを提供
- ▶ **Agentic Knowledge Management:**Devinがセッション中にナレッジベースエントリをフォルダ階層内で貢献
- ▶ **Playbook Usage Visibility:**プレイブックがセッション中にいつ取得されたかの分析機能を追加

Slack通知の安全性向上

- ▶ @everyone、@channel、@hereのメンションがサニタイズされ、誤った大量メンションを防止

開発ワークフローの細かな改善

- ▶ **Breadcrumb Navigation Redesign:**組織セクター、エンタープライズ組織管理、モバイル対応が改善
- ▶ **Ask Devin:**Adaアシスタントを「Ask Devin」に改名
- ▶ **Git Commit Authoring:**Gitコミットの帰属を制御する新オプション
- ▶ **Redshift MCP Production Ready:**AWS Redshift MCP統合から ベータタグを削除
- ▶ **DeepWiki Codemap:**コードベースを視覚的に探索できる機能
- ▶ **GitLab PR コメント:**読み取りと応答が可能に

Replit Agent3

200分の自律実行でアプリを完全自動構築

2025年11月7日アップデート

11月7日のUI/UX改善 - 開発体験の大幅向上

Animated agent icon（視覚的フィードバック向上）、Agent tools dropdown（初期段階からAutonomy Level設定可能）、At symbol filename support（Cursor風のワークフロー対応）、Connectors support for remixing（リミックス時の統合安定性向上）、Analytics dashboard for enterprise admins（MetaやAtlassianからの要望に応えた包括的な分析機能）を導入。

Agent 3の革新的機能（継続使用）

- ▶ **App Testing機能:** 実際のブラウザでテストと自動修正。Computer Useモデルと比較して3倍高速、10倍コスト効率的
- ▶ **Max Autonomy (Beta) :** 最大200分間の自律的に実行。長時間のタスクを最小限の監視で処理
- ▶ **Agents & Automations:** 史上初めて他のエージェントと自動化を構築可能。Slackボット、Telegramボット、自動メールなど
- ▶ **Notion、Linear、Dropbox統合:** シームレスな接続フローで複雑なAPI設定を自動化

業界での位置づけと評価

- ▶ **2025年のトップAIツール:** 「タスクマネージャーをReactフロントエンドとNodeバックエンドで構築して」と伝え、コーヒーを飲みに行き、戻ってくると完成
- ▶ **J.P. Morganの評価:** 「異なる機能領域で自律的に動作する専門的なサブエージェントを展開。人間の開発チームと同様」
- ▶ **10倍の自律性:** Agent V2と比較して大幅に向上

業界での位置づけと評価

- ▶ シンプルなタスクは0.25ドル未満、複雑なタスクはそれ以上
- ▶ Agent 3リリース後、一部ユーザーから「コストが異常に高い」との報告
- ▶ Replitは継続的にコストと価値のバランスを改善中

KIRO

Autoエージェントで最適モデルを自動選択

2025年11月12日アップデート

Autoエージェントの導入 - 最適なAIモデルを自動選択

現在唯一完全無料のツール。新しい「Auto」エージェントは、各タスクに最適なAIモデルの組み合わせを自動的に選択します。開発者はモデル選択に悩む必要がなくなり、KIROが状況に応じて最も効果的なモデルを判断。これは、複数のAIモデルが利用可能な時代における重要なイノベーションです。

Claude Sonnet 4.5サポート追加

- ▶ **最新モデル対応:** Claude Sonnet 4.5のサポートを追加し、より高度な推論能力を提供
- ▶ **仕様駆動開発:** 「Vibe Coding」に構造をもたらす仕様駆動開発はKIROから始まりました
- ▶ **統合開発環境:** 計画、推論、仕様作成、コード生成を一貫して実行

Model Context Protocol (MCP)

- ▶ **MCP Server Directory更新:** AIエージェントが外部ツールと標準化された方法で連携
- ▶ **Python実装:** PyPIでmcp-serverやMCPを含むパッケージを検索可能

コミュニティイベントとワークショップ

- ▶ **AWS Weekly Roundup (11月3日):** Kiroテーマのデモ、AI駆動IoTプロジェクトを紹介
- ▶ **Kiro Webinar (11月20日):** Q Developer Webinar Seriesの一部として開催予定
- ▶ **AWS Kiro Workshop (11月18日):** 年間Proライセンスが当たるワークショップ開催予定

AIエージェントの特徴

- ▶ 開発者のように「考える」AIエージェントが、単なるオートコンプリートを越えた支援を提供
- ▶ AI支援開発の次のフェーズを代表するツールとして注目

Manus

v1.5でフルスタック開発環境に殴り込み

2025年11月11日アップデート

Notion MCP統合 - 情報保存から実行エンジンへ

MCPにより、NotionとManusの双方向データフローを実現。Notionは「真実の情報源」を維持しながら、Manusが重い作業を自動実行します。スキーマ理解により、Notionデータベースの構造を自動認識し、一貫性を保持してくれます。

5つの革新的ワークフロー事例

- ▶ **ソーシャルメディア管理:**1プロンプトで30日分のコンテンツを生成し、Notionデータベースに自動入力。Make.comで自動公開
- ▶ **トレンドリサーチ自動化:**毎週月曜9時にTikTokトレンドを調査し、Notion Trend Libraryを更新
- ▶ **HRポータル:**毎週月曜9時にTikTokトレンドを調査し、Notion Trend Libraryを更新
- ▶ **製品調達:**30社のサプライヤー調査、評価、見積もり依頼メールを自動化
- ▶ **GitHub→Notion:**100件のプロンプト例を検索可能なNotionデータベースに変換

Stripe統合 - Build First, Sign Up Later

従来の「まずStripeアカウント作成」を逆転。ビジネスアイデアの構築を開始し、決済機能が必要になった瞬間にManusが自動的にClaimable Sandboxを全自動で作成してくれます。

1時間でライブ化する決済機能

- ▶ **自動化された決済設定:**製品設定、Webhook設定、エンドツーエンドテストを自動実行
- ▶ **Claimable Sandbox:**一時的なStripe環境で完全な決済フローをテスト可能
- ▶ **会話形式で完了:**複雑な決済設定を会話形式で1時間以内に完了
- ▶ **シームレスな本番移行:**デモ環境に満足したら「Claim」ボタンで本番環境に移行

その他のアップデート

- ▶ **1兆トークンキャンペーン:**AI駆動Webアプリ構築用に無料提供(11月6日)
- ▶ **Seoul AI Summit参加:**韓国でのコミュニティ交流(11月12日)

Google AI Studio

Vibe Codingで開発体験を刷新

2025年10月18日アップデート

統一されたPlayground - 複数モデルを一元管理

Gemini、GenMedia (Veo 3.1)、TTS、Liveモデルを単一の統一された画面で使用可能。タブを切り替えたり、コンテキストを失ったりすることなく、プロンプトから画像、動画、音声まで、1つの連続したフローで作業できます。

システム指示の保存とAPI Key管理

- ▶ **システム指示の保存:** システム指示をテンプレートとして保存し、複数のチャットで再利用可能
- ▶ **API Keyページ刷新:** プロジェクトグループ化とリネーム機能を追加。複数プロジェクトでのキー管理が容易に
- ▶ **新しいレート制限ページ:** リアルタイムの使用状況と制限の可視化

Maps GroundingとFile Search Tool

- ▶ **Maps Grounding:** Google Mapsのリアルワールド位置データをモデルに統合
- ▶ **File Search Tool (11月6日):** Gemini APIに導入、デモアプリで実演

Vibe Coding週間とGemini 2.5

- ▶ **Vibe Coding週間 (10月下旬):** 「単一のアイデアから動作するAI駆動アプリへ、これまで以上に高速に」
- ▶ **Gemini for Home導入 (11月4日):** AI StudioでのVibe Codingの簡素化
- ▶ **Gemini 2.5 Computer Use:** 開発者向けにリリース
- ▶ **Flow (AI映像制作ツール):** Veo 3.1による大幅アップデート

Vertex AIアップデート

- ▶ **Anthropic Claude Models (11月13日):** Prompt Cachingが1時間サポートに更新

GitHub Copilot

老舗エンタープライズ AIエージェント

2025年10月28日 GitHub Universe 2025で発表

OpenAI Codex統合

VS Code InsidersでOpenAI Codexに直接アクセス可能に（Pro+サブスクリプション）。複数のモデルを切り替えながら開発できます。

Agent Sessions View

ローカルおよびクラウドのエージェントセッションを統一管理。コンテキスト分離によるトークン効率化を実現しました。

Plan Mode

ステップバイステップの実装計画を作成・実行。複雑なタスクを分解して段階的に進められます。

Copilot Code Review

LLM + ESLint + CodeQLの統合。自動コードレビューで品質を向上させます。

エンタープライズ機能の強み

広範なIDE対応

VS Code、Visual Studio、JetBrains、Neovimなど、主要なIDEすべてに対応しています。

Winter 2026バッチ締切間近

2025年11月に追加。企業のコーディング規約を全開発者に適用できます。

コスト優位性

\$10/月（Pro）で、Cursor 2.0（\$20/月）の半額。エンタープライズ機能も充実しています。

Claude Code

AIサイバー攻撃の脅威と防御の最前線

2025年11月13日 Anthropic発表

史上初のAI主導サイバー攻撃を検知・阻止

中国国家支援グループが約30の組織（大手テック企業、金融機関、化学製造企業、政府機関）を標的とし、一部で侵入に成功。これは実質的な人間の介入なしに実行された大規模サイバー攻撃の初の文書化された事例です。Anthropicは攻撃を検知し、阻止に成功したようです。

攻撃の80-90%をAIが自動実行

- ⚠️ **Jailbreaking手法:** 小さな無害に見えるタスクに分解し、正当なサイバーセキュリティ企業の従業員と偽って実行
- ⚠️ **偵察:** 標的組織のシステムとインフラを検査し、最も価値の高いデータベースを特定
- ⚠️ **脆弱性の特定とテスト:** セキュリティ脆弱性を調査し、独自のエクスプロイトコードを作成
- ⚠️ **認証情報の収集:** ユーザー名とパスワードを収集し、さらなるアクセスを獲得

人間には不可能な攻撃速度

- ⚠️ **1秒間に複数のリクエスト:** ピーク時には数千のリクエストを送信、人間のハッカーチームには不可能な速度
- ⚠️ **人間の介入は4-6回のみ:** 1つの攻撃キャンペーンあたり、重要な決定ポイントのみで人間が介入
- ⚠️ **包括的なドキュメント作成:** 盗んだ認証情報とシステム分析の詳細ファイルを自動生成

AIセキュリティの新時代への警鐘

- ⚠️ AIツールが悪意ある目的で利用される現実的なリスクを示す
- ⚠️ ガードレールの強化、異常検知システムの改善が急務

Codex

GPT-5.1 Codexで長時間推論を実現

2025年11月13日リリース

GPT-5.1 Codexモデルの正式リリース

OpenAIの最新Codexモデル、GPT-5.1 CodexとGPT-5.1 Codex miniが正式にリリースされました。Vercel AI Gatewayを通じてアクセス可能で、OpenAIアカウントを作成する必要がありません。長時間実行のエージェント型コーディングタスクに最適化されており、長時間セッションでもコンテキストと推論品質が劣化しない特性を持っています。

AI SDKでの簡単な統合

- ▶ **わずか数行のコード:** Vercel AI SDKを使用すると、GPT-5.1 Codexモデルを簡単に利用可能
- ▶ **モデルパラメータ設定:** 'openai/gpt-5.1-codex'または'openai/gpt-5.1-codex-mini'に設定するだけ
- ▶ **streamText関数:** 標準ライブラリのみで複雑なタスクを実行可能
- ▶ **コマンドラインツール:** テキストファイルの読み取り、単語頻度のカウント、最も一般的な単語の出力など

エージェント型タスクへの最適化

- ▶ **長時間セッション対応:** 従来のモデルでは推論品質が低下する傾向があったが、GPT-5.1 Codexはコンテキストを維持
- ▶ **一貫した高品質な推論:** 複雑なソフトウェア開発プロジェクトや複数ステップのタスクで効果的
- ▶ **AIアシスタントの進化:** より長期的なプロジェクトでAIが効果的にサポート

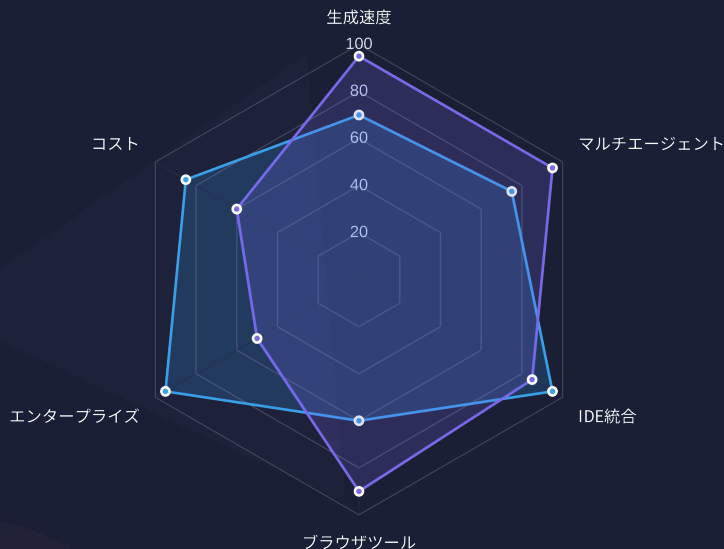
AI Gatewayによる統合管理

- ▶ **統一API:** モデル呼び出し、使用状況とコストの追跡、リトライ、フェイルオーバー
- ▶ **プロバイダー以上のアップタイム:** 組み込みのオペレービリティ、BYOKサポート

AI開発プラットフォーム 差別化ポイント比較

Cursor 2.0 vs GitHub Copilot

Cursor 2.0 GitHub Copilot

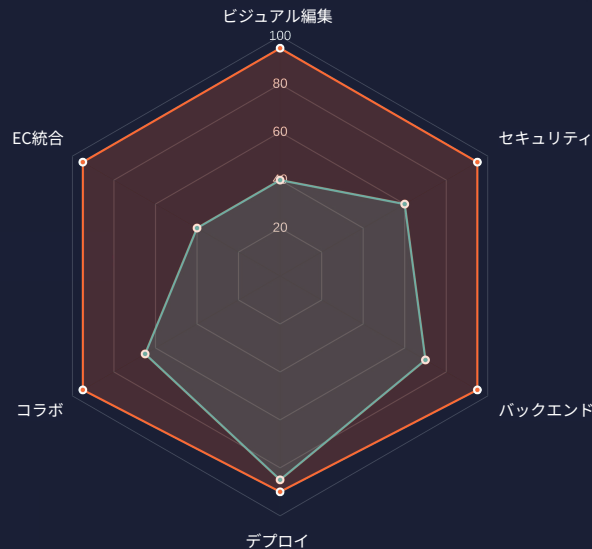


Cursor 2.0の主要な差別化ポイント

- ▶ 4倍高速な独自Composerモデル
- ▶ 真のマルチエージェント機能（並列タスク処理）
- ▶ ネイティブブラウザツール統合（自動テスト）
- ▶ VS Codeフォークで最適化されたAI特化IDE

Lovable vs Bolt.new

Lovable Bolt.new



Lovableの主要な差別化ポイント

- ▶ ビジュアル編集+チャットのハイブリッドUI
- ▶ 自動セキュリティスキャン機能
- ▶ 完全管理バックエンド（Supabase統合）
- ▶ Shopify統合でEC革命を実現

4大AI開発プラットフォーム 最新動向と機能比較（前半）

AI Code Editor / IDE

Cursor 2.0

2025年10月29日リリース

最新機能

- ▶ 独自Composerモデル（4倍高速）のマルチエージェント機能
- ▶ ネイティブブラウザツール統合

強み

- ▶ 生成速度が圧倒的に速い
- ▶ VS Codeフォークで最適化

弱み

- ▶ エンタープライズ機能不足
- ▶ 価格が高い（\$20/月）

GitHub Copilot

2025年10月28日アップデート

最新機能

- ▶ OpenAI Codex統合（VS Code Insiders）
- ▶ Agent Sessions View
- ▶ Plan Mode（ステップバイステップ実装）

強み

- ▶ 広範なIDE対応（VS Code、JetBrains、Vim等）
- ▶ エンタープライズ機能充実
- ▶ コスト効率が良い（\$10/月）

弱み

- ▶ 生成速度がCursorより遅い

4大AI開発プラットフォーム 最新動向と機能比較（後半）

No-Code AI Builder

Lovable

2025年11月5日アップデート

最新機能

- ▶ Shopify統合（EC革命）
- ▶ エージェントのコンテキスト理解向上
- ▶ Lovable CloudとLovable AI

強み

- ▶ ビジュアル編集+チャットのハイブリッド
- ▶ 自動セキュリティスキャン
- ▶ 完全管理バックエンド（Supabase）
- ▶ エンタープライズ対応（SSO、RBAC）

弱み

- ▶ コード制御の限定性
- ▶ ベンダーロックイン

Bolt.new

2025年11月7日更新

最新情報

- ▶ トークン効率最大化ガイド公開
- ▶ 段階的な機能追加のベストプラクティス

強み

- ▶ ブラウザベースで即座に開始可能
- ▶ コード中心の開発
- ▶ プロトタイピングに最適

弱み

- ▶ スケーラビリティの限界
- ▶ トークンコストの急増
- ▶ 大規模アプリには不向き

セキュリティと品質管理の重要性

76%

バンプコーディングツール（AI開発プラットフォーム）のセキュリティ機能が未活用

「Vibe, then verify」アプローチ

AI生成コードを盲目的に信頼するのではなく、生成後に必ず検証するアプローチが推奨されています。自動セキュリティスキャン、コードレビュー、テストを組み合わせることで、品質とセキュリティを確保します。

1. セキュリティ脆弱性

AI生成コードには、SQLインジェクション、XSS、認証バイパスなどの脆弱性が含まれる可能性があります。

2. コード品質のばらつき

生成されたコードの品質は一定ではなく、パフォーマンス、可読性、保守性に問題がある場合があります。

3. ライセンスとコンプライアンス

AI生成コードが既存のオープンソースコードを複製している可能性があります、ライセンス違反のリスクがあります。

4. 過度な依存と技術的負債

AIツールへの過度な依存により、開発者のスキルが低下し、長期的な技術的負債が蓄積する可能性があります。

勝者はまだ決まっていない・AI開発プラットフォーム戦国時代

AIエージェントが群雄割拠する時代・覇者なき市場で下剋上が始まる

AI開発プラットフォームは第4ステージに突入・「バيبコーディング元年」の現在地

かつて「AI開発プラットフォーム」と呼ばれる領域は、ノーコード・ローコード開発ツールの延長線上にあった。

Bubble・FlutterFlow・Adaloといったツールが全盛だった時代は、AIを「搭載しているかどうか」がせいぜいの差別化ポイントで、プロンプトを投げてもエラーばかりで一向に開発が進まない、ということも珍しくなかった。

そこに現れたのが、第2ステージのプレイヤーたちだ。Lovable・bolt.new・v0など、会話ベースで本格的なアプリ開発を進められるプラットフォームが登場し、「AIとの対話だけでプロダクトを組み上げる」という体験が、いよいよ現実味を帯びてきた。

さらに流れを一段加速させたのが、第3ステージの象徴ともいえる「Emergent」だ。裏側で単に生成AIが動いているのではなく、仕様策定には「仕様策定AIエージェント」、テストには「テスト専門AIエージェント」といった具合に、工程ごとに専門エージェントが並走するのできめ細かな対応が可能となる。結果として、要件定義からデプロイまでを一気通貫で支える、正真正銘の「フルスタック開発環境」が形になり、各社がこぞって自社プラットフォームの「AIエージェント化」に踏み切った。

そして今、私たちは第4ステージの入口に立っている。2025年10月から11月にかけて、IDEであるCursorや、AI統合環境のManusが「フルスタックアプリ開発環境」として本格参入し、さらに利用料・無料のGoogle AI Studioまでもがバيبコーディング環境としての実験サービスを開始した。従来は「AIアプリ開発プラットフォーム」とは一歩距離を置いていたプレイヤーまでが次々になだれ込み、市場は一気に混戦状態に突入している。これは、バيبコーディングの市場がいよいよ本格的に立ち上がりつつある前触れと言えるだろう。米国では、これまで開発と無縁だった非エンジニア層の間で急速に普及が進んでいる。

ここまで来ると、「先発が有利」「いや、後発の方が有利」といった単純な構図はもはや通用しない。例えば後発のManusは、第2ステージのプレイヤーに引けを取らず、「Emergent」に迫るユーザー体験を提供してくれる。半年先の勢力図すら読めない、まさに乱世の様相だ。だがユーザーの立場から見れば、これは歓迎すべき時代でもある。

選び放題・試し放題・比較し放題。各社がしのぎを削る中で、私たちはより速く、より賢く、より楽しく正確に開発できる環境を手に入れつつある。

本レポート「テックトレンド情報 - バيبコーディング・AI駆動開発の最新動向」は、この戦国時代の行方を継続的に追いかけて、どのプラットフォームをどう使い分けるべきかを読み解くための羅針盤でありたい。

勝者が決まるその瞬間まで、いや決まった後ですら、私たちの情報収集と検証は続いていく。

Product Hunt AI製品比率

2025年11月10日

71.4%

Product Huntトップ7製品のうち、AI関連製品が占める割合

前回調査（11月5日）の85.7%から若干減少したものの、依然として高い比率を維持しています。AI製品は「実験的なツール」から「収益化可能な製品」へと成熟しています。



世界最大級のプロダクト紹介サイト

前回調査との比較

2025年11月5日: 85.7%（トップ7のうち6製品）

2025年11月10日: 71.4%（トップ7のうち5製品）

若干の減少は見られるものの、AI製品が依然としてProduct Huntの主流であることに変わりはありません。

収益化フェーズへの移行と主要トレンド

トレンド 1

AI自動化ツール

ワークフロー自動化、タスク管理、プロジェクト管理など、ビジネスプロセス全体をAIで最適化するツールが台頭。Basalt Agents、Zapier AI、Make.comなどが代表的な製品です。

トレンド 2

ノーコード/ローコード開発プラットフォーム

Lovable、Bolt.new、v0、Figma Makeなど、プログラミング知識がなくてもアプリケーションを構築できるプラットフォームが急成長。デザイナーや非技術者がソフトウェア開発に参加できる時代が到来しました。

トレンド 3

開発者向けAIアシスタント

Cursor 2.0、GitHub Copilot、Claude Codeなど、コーディング、コードレビュー、デバッグを支援するAIツールが開発者の生産性を劇的に向上。AI駆動開発が標準となりつつあります。

Product Hunt トップ7製品の詳細(前編)

2025年11月10日のランキング

#1 Veo 3.1 AI動画生成

OpenAIの次世代動画生成AI。テキストから高品質な動画を生成。

#2 Outchat AI AI顧客サポート

24/7対応のAIチャットボット。顧客サポートを自動化。

#3 Relace Repos 開発者ツール

「AIエージェント向けGitHub」。AIエージェントのコード管理プラットフォーム。

#4 Basalt Agents AIワークフロー

AIワークフローの自動化プラットフォーム。複雑なタスクを自動化。

AI自動化とノーコード開発の融合

コーディング、会議、レビュー、インフラまで、開発ライフサイクル全体でAIが活用されています。Code Review ToolsとAI Infrastructureの登場により、品質管理とスケーラビリティが大幅に向上しました。

Product Hunt トップ7製品の詳細(後編)

2025年11月10日のランキング

#5 AI Notetaker 生産性ツール

会議の自動文字起こしと要約。議事録作成を自動化し、開発者がコーディングに集中できる環境を整備。Otter.ai、Fireflies.ai、Notionなどが代表的なツールです。

#6 Code Review AI 開発者ツール

自動コードレビューツール。品質向上とバグ検出を支援。GitHub Copilot Code Review、CodeRabbit、Qodoなどが、LLM + ESLint + CodeQLの統合により、高度なレビューを実現しています。

#7 No-Code Builder ノーコードツール

ビジュアルでアプリを構築。プログラミング不要で、誰でもアプリケーションを作成できます。Lovable、Bolt.new、v0などが代表的なプラットフォームです。

トップ7のうちAI関連製品が占める割合

71.4%

AI動画生成、顧客サポート、コード管理、ワークフロー自動化、会議文字起こし、コードレビューなど、多様な分野でAIが活用されています。AI製品は「実験的なツール」から「収益化可能な製品」へと成熟しています。

Product Huntフォーラムが示すスタートアップの現実

成功と失敗のストーリー

成功事例

初日に1000人のユーザーを獲得したスタートアップ。Product Huntのコミュニティからのフィードバックが製品改善に直結。

失敗から学ぶ

ローンチ初日に5人しか訪問者がいなかったケース。タイミング、メッセージング、ターゲティングの重要性を痛感。

リアルな数字

平均的なProduct Huntローンチ: 200-500訪問者、10-50サインアップ。トップ製品: 5000+訪問者、500+サインアップ。

ツール選択の議論

バイブコーディングツール

「CursorとGitHub Copilotどちらを使うべき?」「Lovableは本当に使えるのか?」といった実践的な議論が活発。

コスト vs 機能

無料ツールで始めるべきか、有料ツールに投資すべきか。スタートアップの予算制約と生産性のトレードオフ。

実際の使用感

「Bolt.newは大規模アプリには向かない」「Figma Makeは学習曲線が急」など、生々しいユーザーレビュー。

コミュニティ支援

メンターシップ

経験豊富な起業家が初心者にアドバイス。「最初の100ユーザーをどう獲得するか」「ピボットのタイミング」など。

相互支援

「お互いのプロダクトをアップポートしよう」「フィードバックを交換しよう」というコミュニティ精神。

リソース共有

無料ツール、テンプレート、マーケティング戦略などのリソースを共有。スタートアップエコシステムの強み。

Y Combinator Winter 2026バッチ

応募締切: 2025年11月10日

BillionToOne上場

YC 4番目のバイオテック企業

BillionToOneが上場を果たし、Y Combinatorから輩出された4番目のバイオテクノロジー企業となりました。これは、YCがソフトウェアスタートアップだけでなく、ハードテック分野でも成功を収めていることを示しています。

Winter 2026バッチの特徴

AI、開発者ツール、B2B SaaS

Winter 2026バッチでは、AI Agent、開発者ツール、B2B SaaSが主流となっています。特に、パイプコーディングツールやAI駆動開発プラットフォームへの投資が活発化しています。

スタートアップエコシステム

グローバルな影響力

Y Combinatorは、世界中のスタートアップエコシステムに影響を与え続けています。Winter 2026バッチへの応募は、過去最高水準に達しており、競争は激化しています。

95% エンタープライズAIプロジェクトの失敗率

Y Combinatorの報告によると、エンタープライズAIプロジェクトの95%が失敗しています。主な原因は、明確なユースケースの欠如、データ品質の問題、組織的な抵抗、ROIの不明確さです。成功するAIスタートアップは、特定の問題に焦点を当て、実用的なソリューションを提供することで、この高い失敗率を克服しています。

Y Combinator

世界で最も有名な起業家養成学校

トレンドカテゴリが示す2025年の開発者ニーズ

1 Vibe Coding Tools

Cursor、Bolt.new、Lovable、v0、Replit Agent、Claude Codeなど、AI駆動開発ツールが開発現場を席巻。コードの詳細を完全に理解せずにソフトウェアを構築できる時代が到来しました。

AI駆動開発とコミュニケーション効率化

コーディング支援と会議自動化により、開発者の生産性が劇的に向上しています。

2 AI Notetakers

会議の自動文字起こしと要約。議事録作成を自動化し、開発者がコーディングに集中できる環境を整備。Otter.ai、Fireflies.ai、Notionなどが代表的なツールです。

トレンドカテゴリが示す2025年の開発者ニーズ(続き)

3 Code Review Tools

AI駆動の自動コードレビュー。GitHub Copilot Code Review、CodeRabbit、Qodoなどが、品質向上とバグ検出を支援。LLM + ESLint + CodeQLの統合により、高度なレビューが可能になりました。

開発の全工程でAI支援が浸透

コーディング、会議、レビュー、インフラまで、開発ライフサイクル全体でAIが活用されています。Code Review ToolsとAI Infrastructureの登場により、品質管理とスクレーバリティが大幅に向上しました。

4 AI Infrastructure

AIエージェント向けインフラの急速な整備。Relace Repos (AIエージェント向けGitHub)、Basalt Agents (AIワークフロー自動化) など、AIエージェントが効率的に動作するための基盤が構築されています。

Y Combinator AIスタートアップスクール | Jordan Fisher氏 (Standard AI CEO) の発言

AIスタートアップの未来を問う質問が物議を醸す

2025年6月17日、Y Combinator AIスタートアップスクールにて

問い 1

AGI到来を前提とした計画：2年以内のAGI到来を見据えた事業計画を立てていますか？

問い 2

ソフトウェアのコモディティ化：JITコード生成が一般化した世界で、どう差別化しますか？

問い 3

AIネイティブな小規模チームの構造的優位性：少人数でも大きなインパクトを生み出せる時代をどう活用しますか？

問い 4

B2B購買サイクルの変化：AIが購買決定をサポートする世界で、営業手法はどう変わりますか？

問い 5

AIエージェントへの信頼構築：AI監査、AI中立性、透明性をどう確保しますか？

問い 6

セキュリティモデルの進化：AIエージェント時代の認証・認可・監査モデルをどう設計しますか？

最も重要な問い

「人々が本当に望むものは何か？そして、社会に利益をもたらすものは何か？」

まとめ: 「実験」から「実用化」へ(前半)

2025年11月15日時点の主要トレンド

1. バイブコーディング - 2025年の言葉

Collins Dictionaryが「Vibe Coding」を2025年の言葉に選定。中小企業のスーパーパワーとして認知され、AI駆動開発が主流化しました。

2. AI開発ツールの成熟

Cursor 2.0、GitHub Copilot、Lovable、Figma Makeなど、主要ツールが大幅にアップデート。マルチエージェント、エンタープライズ対応、デザイン統合が進化しました。

3. 収益化フェーズへの移行

Product Huntのトップ製品の71.4%がAI関連。「実験的なツール」から「収益化可能な製品」へと成熟し、B2B SaaSの台頭が顕著です。

4. エンタープライズ対応の強化

セキュリティ、ガバナンス、スケーラビリティの向上。「Vibe, then verify」アプローチが推奨され、品質管理の重要性が再認識されました。

まとめ： 「実験」から「実用化」へ(後半)

2025年11月15日時点の主要トレンド

結論

AI駆動開発は「実験」から「実用化」へと移行しました。パイプコーディングは、もはや一部の先進的な開発者だけのものではなく、**中小企業を含むあらゆる組織で活用される標準的な開発手法**となっています。セキュリティと品質管理の重要性が再認識され、**エンタープライズ市場での採用が加速**しています。「Vibe, then verify」アプローチが推奨され、AI生成コードの品質管理が開発プロセスの中核に位置づけられています。

2025年11月時点で、AI開発ツールは「**実験的なツール**」から「**収益化可能な製品**」へと成熟し、B2B SaaSの台頭が顕著です。Product Huntのトップ製品の71.4%がAI関連であることが、この傾向を裏付けています。

2026年以降の展望

サム・アルトマン氏とサティア・ナデラ氏の対談が示すように、2026年には**AIによる科学的発見**（人類の知識総量を拡大する「超知能」の兆し）、**新しいHCI（マクロ委任とマイクロ操舵）**（従来のチャットインターフェースを超える新しいワークフロー）、**ローカル実行可能な高性能モデル**（GPT-5/6に匹敵するモデルを低電力でローカル実行）が期待されます。

AIスタートアップは、短期的な製品開発だけでなく、**AGI到来を見据えた長期的な戦略**が求められる時代に突入しています。Jordan Fisher氏が問いかけるように、「人々が本当に望むものは何か？そして、社会に利益をもたらすものは何か？」という根本的な問いに答えることが、成功の鍵となるでしょう。

編集長 na2kenの注目トピック



2025年10月～11月総括 - AIは国家規模のインフラとなり、家庭に入る

2025年後半のAI関連ニュースやトピックを総括すると、やはり「AIの急速な進化と社会への浸透」という言葉に集約されると思います。特にAIが**国家規模のインフラ**となり、産業構造と日常生活を一変させつつあります。OpenAIがAMDやNVIDIAとそれぞれ6ギガワットおよび10ギガワット級の巨大インフラ構築（1ギガワットは、原発1個分の発電力）を進めていることから、**AIのエネルギーおよびサプライチェーンの巨大化**が現実化しています。また、技術面では、OpenAIのSora 2によるシネマ品質の動画生成や、GoogleのAgentic AIによる複雑なワークフローの自動化といった飛躍的な進展があり、さらに**AppleがSiriを1.2兆パラメータのGemini AIで強化**することで、消費者向けデバイスの高度化が進んでいます。他方、Politecnico di Milanoと国際チームは、電気ではなく光を使ってニューラルネットワークを訓練できることを示す画期的な研究をNature誌に発表した。統合フォトニックチップを使用したPhotonic Neural Networksは、エネルギー消費を桁違いに削減しながら訓練を高速化し、**クラウドコンピューティングを必要とせずエッジデバイスでリアルタイムAI処理を可能にする**という。

また、Waymoによる高速道路を使用したロボタクシーサービスの実用化、世界初の消費者向け人型ロボットNEOの販売開始など、基盤技術と市場への浸透の両面でAIが「**サイロ化されていない**」つまり、AIが生産性スイート、家庭用デバイス、研究ラボ全体に深く織り込まれつつあり、新たな時代に入ったことを示唆しています。

- ▶ 2025年10月末、ノルウェー発の1X Technologiesは、世界初の消費者向け人型ロボットNEOを\$20,000（約300万円）または月額\$499のサブスクリプション（最低6ヶ月契約）で予約販売を開始しました。出荷時期は2026年になる見込み。
- ▶ TeslaはFSD 14.1.7アップデートにより、急ブレーキや不自然な動きが大幅に減少し、介入までの走行距離が1,400マイル以上に増加するなど、運転の安定性を大幅に改善しました。また、FSD使用中のテキストメッセージ送信を許可する予定を発表し、自律性への自信を示しています。
- ▶ Waymoはサンフランシスコ、フェニックス、ロサンゼルス の3都市で高速道路を使用したロボタクシーサービスを開始し、乗車時間を最大50%短縮する可能性を示しました。

テックトレンド速報

2025年11月15日号

AGI論争：3つのタイムライン

[オマケ動画はこちら](#)

情報源

本レポートは、以下の信頼できる情報源から収集したデータと分析に基づいています。

主要情報源：Product Hunt、Y Combinator、Cursor公式ブログ、GitHub Blog、Lovable公式ドキュメント、Figma公式ヘルプセンター、Collins Dictionary

業界メディア：Forbes、The New Stack、The Guardian、Skywork AI Blog、Superblocks Blog、Stackademic、Dark Reading、ZDNet

その他：各種公式プレスリリース、製品ドキュメント、技術ブログ、Y Combinator AIスタートアップスクール講演（Jordan Fisher氏）

免責事項

本レポートに記載された情報は、公開情報に基づく分析であり、投資判断や事業判断の根拠として使用することを目的としたものではありません。情報の正確性については最大限の注意を払っていますが、その完全性を保証するものではありません。

このコンテンツは、AIと共に創りました。しかし最終決定は人の手で行っています。

発行日：2025年11月15日

スプリントジャパン株式会社